

地域の現状と振興センターの取り組み

地域営農体制の確立

[現状]

- 耕地面積に占める担い手シェアは約55%と依然として、県目標(R13:80%)と比較し低い水準
- 担い手農家の高齢化や法人経営体等での労働力不足、米価低迷による農業所得の減少

[課題]

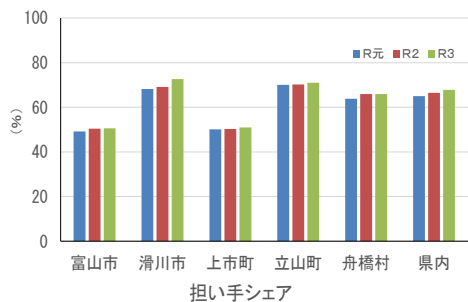
- 人・農地プランに基づいた地域営農体制の構築
- 農地中間管理事業等による農地の集積・集約化
- 組織化や法人化による経営体質の強化
- 新規就農者の育成
- 担い手農家における高収益作物の導入

[令和3年度の取組実績]

- 担い手シェア：56.5%(R2:55.8%)
- 新規組織化数：1組織
- 新規法人化数：11法人
- 新規就農者数：19名

[今後の重点的な取組み]

- 農地中間管理事業の受け手となる担い手経営体の育成
- 国営水橋地区などのほ場整備事業での担い手経営体への農地集積の推進及び高収益作物導入の支援
- 新規就農者の確保に向けたマッチングや新規就農者への技術、経営指導



経営体の体質強化に向けた支援を実施



集落営農の組織の育成や法人化指導



経営継承に向けた打ち合わせ(上市町)

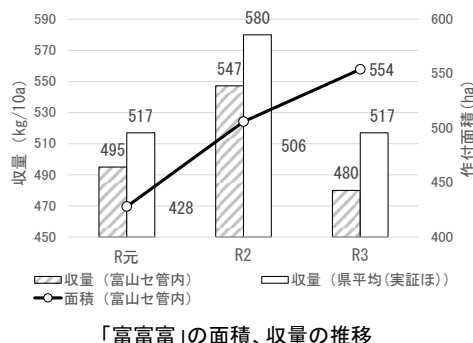


農業生産法人(6法人)をめぐる就農マッチングバスツアーの開催(8月 滑川市、上市町、立山町)

県内外から9名が参加

[現状]

- 登熟期間の高温による白未熟粒やカメムシによる斑点米が発生し、1等米比率が低下
- 「富富富」の需要は拡大傾向にあるものの、収量や品質にバラツキ
- 担い手経営体の規模拡大による労働力不足



[課題]

- 1等米比率や食味の高位安定化
- 「富富富」の生産拡大と収量・品質の確保 (R2: 県全体1,282ha R7目標 2,000ha)
- スマート農業の実践による省力化の推進

[令和3年度の取組実績]

- 溝掘り・中干しなど基本技術の徹底により管内うるち全体で93.1%、コシヒカリ94.3%となり、目標の90%を達成
- 一部の地域や経営体で、①カメムシ斑点米による格下げ、②育苗日数の長期化による老化苗が目立つ
- スマート農機の導入が拡大

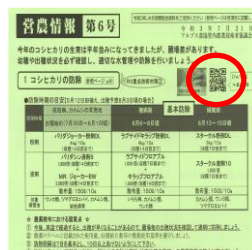
	なのはな	富山市	あおば	山田村	アルプス	管内	県全体
うるち全体	98.4	95.1	91.5	96.7	90.6	93.1	94.0
うちコシヒカリ	98.3	98.1	91.7	98.0	90.8	94.3	95.0
うちてんかく	97.3	79.8	85.6	83.0	85.5	86.6	94.3
うちてんこもり	99.4	98.3	91.9	100	96.1	96.7	96.6
うち富富富	98.4	92.9	97.7	100	94.1	95.4	96.2

県産米の競争力強化

1等米比率・食味の向上を目指し、管理作業の「見える化」を推進



JAあおばの作業指示看板



営農情報にQRコードを掲載し、現地でスマホでも確認できるように掲載(JAアルプス)

スマート農業の推進



スマート農業研修会の開催(11月 スマート農業普及センター)

- 農業者への巡回指導
- 生育展示ほ 96ヶ所
- 作業指示看板 352ヶ所
- 稲作情報の発行
- スマート農業技術の現地実証

[今年度の重点的な取組み]

- 米品質が低い地域や経営体の重点指導
- 「富富富」の栽培管理指導(273経営体、556ha)及び生産拡大の推進
- 国営水橋地区などのほ場整備事業実施地区におけるスマート農業の推進
- 肥料等の高騰に対応した、緑肥作物の導入やコスト低減が可能な品種(富富富)の作付け推進